Suntory Museum of Art
サントリー美術館 NEWS RELEASE No. sma 0070 2024.6.20

没後300年記念　英一蝶
──風流才子、浮き世を写す──

｜会期｜2024年9月18日（水）～11月10日（日）

サントリー美術館（東京･六本木／館長：鳥井信吾）は、2024年9月18日（水）から11月10日（日）まで「没後300年記念　英一蝶　──風流才子、浮き世を写す──」を開催いたします。

英一蝶（はなぶさいっちょう）（1652～1724）は元禄年間（1688～1704）前後に、江戸を中心に活躍した絵師です。はじめは狩野探幽の弟・安信のもとでアカデミックな教育を受けますが、菱川師宣や岩佐又兵衛らに触発され、市井の人々を活写した独自の風俗画を生み出しました。この新しい都市風俗画は広く愛され、一蝶の画風を慕う弟子たちにより、英（はなぶさ）派と呼ばれる一派が形成されます。他にも、浮世絵師･歌川国貞のように一蝶に私淑した絵師は多く、後世にも大きな影響を与え続けました。また、松尾芭蕉に学び俳諧をたしなむなど、幅広いジャンルで才能を発揮しています。

加えて、その波乱万丈な生涯も人気に拍車をかけました。一蝶は元禄11年（1698）、数え47歳で三宅島へ流罪になるという異色の経歴を持ちます。宝永6年（1709）、将軍代替わりの恩赦によって江戸へ戻りますが、島で描かれた作品は〈島一蝶（しまいっちょう）〉と呼ばれ、とくに高く評価されています。そして江戸再帰後は、「多賀朝湖（たがちょうこ）」などと名乗っていた画名を「英一蝶」と改めました。

2024年は一蝶の没後300年にあたります。この節目に際し、過去最大規模の回顧展を開催します。瑞々しい初期作、配流時代の貴重な〈島一蝶〉、江戸再帰後の晩年作など、各地に残る優品を通して、風流才子・英一蝶の画業と魅力あふれる人物像に迫ります。

展示構成

※展覧会会場では、章と作品の順番が前後する場合があります

第1章　多賀朝湖時代

英一蝶は承応元年（1652）、京都で生まれました。父の多賀白庵（伯庵）は伊勢亀山藩主・石川主殿頭憲之の侍医をしており、一蝶が15歳（あるいは8歳）のときに、藩主に伴い一家で江戸に下りました。母の姓は一説に「花房」であったとされ、島流しから江戸に戻った後に名乗る「英」の氏は母方に由来すると考えられています。

狩野宗家の狩野安信に入門し、江戸狩野派の高い絵画技術と、古典に関する幅広い教養を身に付けた一蝶は、次第に狩野派の枠を飛び出し、独自の絵画世界を確立していきます。生き生きとした人物描写と、ユーモアあふれる視点、狩野派仕込みの確かな画技が合わさった唯一無二の風俗画によって、一蝶は一躍人気絵師へと上り詰めました。また、古典画題にひねりを加えた戯画も多く、安信門下で得た知識を一蝶ならではの表現へと昇華させています。

このような新鮮な感性は、俳諧を通して培われたと推測されます。20、30代の頃に松尾芭蕉に学び、俳諧師の宝井其角・服部嵐雪らと生涯親しく交流した一蝶は、自らも暁雲という号で複数の句を残しています。俳諧の機知や滑稽味に富んだまなざしは、一蝶の絵師としての姿勢にも大きな影響を与えました。

多様な作品を手掛けた一方、仏画、風景画、花鳥画のような王道の主題にも正面から取り組んでおり、狩野派絵師としての自負を強く持ち続けていたことが分かります。

本章では、「多賀朝湖」と名乗っていた時期の一蝶が、狩野派に基盤を持ちながらも、風俗画家として能力を開花させていく様子を追います。また、俳諧の分野での活動も紹介し、そのマルチな才能に焦点を当てます。

雑画帖のうち「睡猫図」　英一蝶
一帖のうち一面　江戸時代　17世紀　大倉集古館
【通期展示（場面替あり）／本場面の展示期間:9/18～10/14】

朝暾曳馬図　英一蝶　一幅　江戸時代　17世紀　静嘉堂文庫美術館
（公財）静嘉堂／ DNPartcom 【展示期間：10/16～11/10】

投扇図　英一蝶　一幅　江戸時代　17世紀　板橋区立美術館 【展示期間：9/18～10/14】

主な出品作品

・四条河原納涼図	英一蝶	一幅	江戸時代	17世紀	千葉市美術館
・柳燕図	英一蝶	一幅	江戸時代	17世紀	京都国立博物館
・朝暾曳馬図（ちょうとんえいば）	英一蝶	一幅	江戸時代	17世紀	静嘉堂文庫美術館
・投扇図	英一蝶	一幅	江戸時代	17世紀	板橋区立美術館
・雑画帖	英一蝶	一帖	江戸時代	17世紀	大倉集古館
・重要文化財　風俗画絵鑑	英一蝶	一帖	江戸時代	17世紀	茨城県立歴史館

第2章　島一蝶時代

40代ですでに絵師として不動の人気を得ていた一蝶は、突然悲劇に見舞われます。第五代将軍・徳川綱吉による「生類憐(しょうるいあわれ)みの令」を皮肉った流言に関わった疑いで捕らえられ、元禄11年（1698）、三宅島へ流罪となります。ただし、この事件の真犯人はすぐに捕まったため、実際の理由は別にあったと考えられています。一番有力な説は、江戸吉原に出入りし幇間(ほうかん)（太鼓持ち）として大名などと交流していた一蝶が、綱吉の生母・桂昌院(けいしょういん)の縁者を遊所に誘い、遊女を身請けさせたという理由などで、幕府から目を付けられていたというものです。島流しは原則無期であり、一蝶も二度と江戸の地を踏めないことを覚悟したと思われます。しかし幸運なことに、宝永6年（1709）、綱吉死去にともなう将軍代替わりの恩赦によって、一蝶は江戸への帰還を果たします。

配流中の作品は、江戸の知人たちからの発注によるものと、三宅島や近隣の島民のために制作したものの二つに大別されます。前者は遊興に取材した風俗画が多く、江戸から送られてきた貴重な紙や絵具を丁寧に使用した、華やかな画風で知られます。一方、後者は神仏画や吉祥画など、信仰関連の作品が大半を占め、堅実で穏やかな作風が特徴です。

三宅島での生活は47歳から58歳までの足かけ12年におよび、〈島一蝶〉と呼ばれる、一蝶の画業を象徴する作品が多数生まれました。本章では、配流中に描かれた〈島一蝶〉の傑作を通して、その制作の様子をご紹介します。

吉原風俗図巻（部分）　英一蝶　一巻　元禄16年（1703）頃　サントリー美術館
【通期展示（場面替あり）／本場面の展示期間：10/16～11/10】

重要文化財　布晒舞図　英一蝶　一幅　江戸時代　17～18世紀　遠山記念館　【展示期間:10/16～11/10】

神馬図額　英一蝶
一面　元禄12年（1699）頃
東京・稲根神社
【通期展示】

主な出品作品

- 重要文化財　布晒舞図　英一蝶　一幅　江戸時代　17～18世紀　遠山記念館
- 吉原風俗図巻　英一蝶　一巻　元禄16年（1703）頃　サントリー美術館
- 松風村雨図　英一蝶　一幅　江戸時代　17～18世紀　個人蔵
- 神馬図額　英一蝶　一面　元禄12年（1699）頃　東京・稲根神社
- 大森彦七図額　英一蝶　一面　元禄12年（1699）頃　東京・稲根神社

第3章　英一蝶時代

配流先の三宅島から江戸へ奇跡的に戻った一蝶は、画名を「英一蝶」に改め、精力的に制作に励みます。名の由来は、中国戦国時代の思想家・荘子の「胡蝶（こちょう）の夢」で、島での生活や恩赦の知らせが夢か現実かと思い悩む心情を、この説話になぞらえたとされています。

再帰後は「今や此の如き戯画（風俗画）を事とせず」と宣言し、一蝶の代名詞ともいえる風俗画から離れる決意を固めます。その言葉を裏付けるように、謹直な仏画、狩野派の画法を順守した花鳥画や風景画、古典的画題に実直に取り組んだ物語絵や故事人物画などが増えていきます。一方で、風俗画の依頼は絶えなかったようで、都市や農村に生きる人々の営みに、一蝶ならではの諧謔味を加えた《雨宿り図屏風》や《田園風俗図屏風》のような大作も複数残されています。また、古典的主題をアレンジした戯画も引き続き描いており、江戸再帰後も生来の洒落っ気は健在であったことをうかがわせます。なお、親友の其角や嵐雪は配流中に亡くなっていたため再会は叶いませんでしたが、俳諧との関わりは継続しており、様々な俳書に挿絵を寄せています。

一蝶は享保9年（1724）、73歳でこの世を去りました。辞世の句「まぎらはす　浮き世の業（わざ）の色どりも　有りとや月の薄墨の空」からは、生涯を風俗画に捧げた一蝶の強い自負が感じられます。

展覧会を締めくくる本章では、晩年期の優品や俳書を通じて、卓越した才能と洗練された美意識で人々を魅了した「風流才子」こと英一蝶の画業と人となりを浮き彫りにします。

雨宿り図屏風　英一蝶　六曲一隻　江戸時代　18世紀　東京国立博物館
Image: TNM Image Archives 【展示期間:9/18～10/14】

釈迦十六善神図　英一蝶
一幅　江戸時代　18世紀　個人蔵
【展示期間:9/18～10/14】

主な出品作品

・雨宿り図屏風	英一蝶	六曲一隻	江戸時代	18世紀	東京国立博物館
・田園風俗図屏風	英一蝶	六曲一双	江戸時代	18世紀	サントリー美術館
・琴棋書画図屏風	英一蝶	六曲一双	江戸時代	18世紀	今日庵
・釈迦十六善神図	英一蝶	一幅	江戸時代	18世紀	個人蔵
・花鳥図	英一蝶	二幅	江戸時代	18世紀	東京国立博物館
・英一蝶像	二代高嵩谷	一幅	江戸時代	19世紀	東京国立博物館

没後300年記念　英一蝶　──風流才子、浮き世を写す──

会　　期　2024年9月18日（水）～11月10日（日）
※作品保護のため、会期中展示替を行います

主　　催　サントリー美術館、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社

協　　賛　三井不動産、三井住友海上火災保険、サントリーホールディングス

会　　場　サントリー美術館
東京都港区赤坂9–7–4　東京ミッドタウン　ガレリア3階

交通機関（東京ミッドタウン［六本木］まで）
都営地下鉄大江戸線六本木駅出口8より直結
東京メトロ日比谷線六本木駅より地下通路にて直結
東京メトロ千代田線乃木坂駅出口3より徒歩約3分

基本情報

開館時間　10時～18時
※金曜および11月9日（土）は20時まで、9月27日（金）、28日（土）は六本木アートナイトのため22時まで開館
※いずれも入館は閉館の30分前まで

休 館 日　火曜日（11月5日は18時まで開館）

入 館 料　・当日券：一般1,700円、大学・高校生1,000円、中学生以下無料
・前売券：一般1,500円、大学・高校生800円
※サントリー美術館受付、サントリー美術館公式オンラインチケット、ローソンチケット、セブンチケットにて取扱
※前売券の販売は2024年7月3日（水）から9月17日（火）まで
※サントリー美術館受付での販売は開館日のみ

割　　引　・あとろ割：国立新美術館、森美術館の企画展チケット提示で100円割引
・団体割引：20名様以上の団体は100円割引
※割引適用は一種類まで（他の割引との併用不可）

イベント情報

展覧会関連プログラム

講演会「英一蝶に消された多賀朝湖という絵師とは？」

講師：安村敏信氏（静嘉堂文庫美術館・館長／北斎館・館長）

日時：10月6日（日）14時～15時30分

会場：6階ホール　料金：700円（別途要入館料）　定員：95名

※当館ウェブサイトよりお申込みください。応募者多数の場合は抽選

ファミリータイム

日時：11月2日（土）10時～13時

中学生以下のお子様をお連れの方は入館料が割引になる、キッズフレンドリーな時間帯です。鑑賞支援ツールやレクチャーなどを利用して、子どもから大人まで、気軽に鑑賞をお楽しみください。

※お子様と一緒の鑑賞を支援する時間帯となりますが、どなたでもご入館いただけます

呈茶席（お抹茶と季節のお菓子）

日時：9月19日（木）、10月3日（木）・17日（木）・31日（木）、11月7日（木）
12時、13時、14時、15時にお点前を実施（お点前の時間以外は入室不可）

会場：6階茶室「玄鳥庵」　定員：各回12名／1日48名　呈茶券：1,200円（別途要入館料）

※呈茶券は当日10時より3階受付にて販売（当日先着順・予約不可、お一人様2枚まで。混雑時は9時半より整理券配布）

詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。追加のプログラムを開催する場合もウェブサイトでご案内します。

お問い合せ

一般お問い合わせ	03－3479－8600
美術館ウェブサイト	https://www.suntory.co.jp/sma/
広報画像のお申込み	https://www.suntory.com/sma/press/exhibition/v94r7P/itcho0620.pdf
報道関係のお問合せ	「没後300年記念　英一蝶」広報事務局（株式会社TMオフィス内） 担当：馬場・永井・西坂 TEL：050-1807-2919 E-mail：hanabusa300@tm-office.co.jp
美術館への取材に関するお問い合わせ	サントリー美術館　〔学芸〕池田　〔広報〕石松 E-mail：sma-pr@suntory.co.jp

以　上